

『ICTを活用した分野横断法政策フォーラム型授業』 の実践と改善

神奈川大学法科大学院 中村壽宏



1

[Agenda]

■ 概要

2018年度実施の「分野横断法政策フォーラム型授業」の実施結果と検討。
2019年度実施計画としての、事実・理論・実務的知識等を構造的に体系化し、マインドマップ等の手法で可視化する授業方法の提示。

■ このユニットのあらまし

- 授業モデルの内容について。
- 具体的な授業の実施方法について。
- どのような問題が顕在化したかについて。
- 問題点をどのように改善できるかについて。
- 2019年度に実施する計画の概要について。

2

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 基本情報

中村壽宏（なかむらとしひろ） 神奈川大学大学院法務研究科 教授.

- 民事訴訟法・民事執行法・倒産処理法
- イタリア法
- 大学における, FDの観点からみたICTを利用した授業方法の研究

■ FD関係の社会活動

- 公益社団法人 私立大学情報教育協会
法律学教育FD/ICT活用研究委員会 委員
FD情報技術講習会運営委員会 委員
電子著作物相互利用事業委員会 アドバイザー

3



[計画] 授業モデル

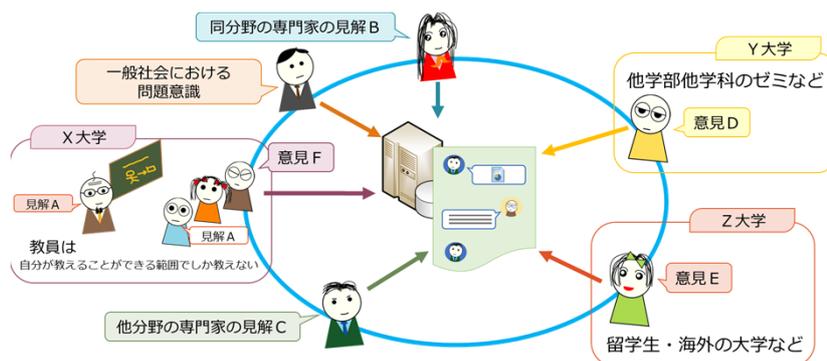
4

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 授業モデルの目的

すべてを一人の教員が担う授業の弱点を補い、
具体的な事実から理論へ繋げるボトムアップ式の教育に向けて、
法律と他分野が絡む社会の問題を取り上げ、
複数分野の教員が参加してネット上にフォーラムを形成し、
学生に議論させる分野横断型の授業モデルの提案。

5



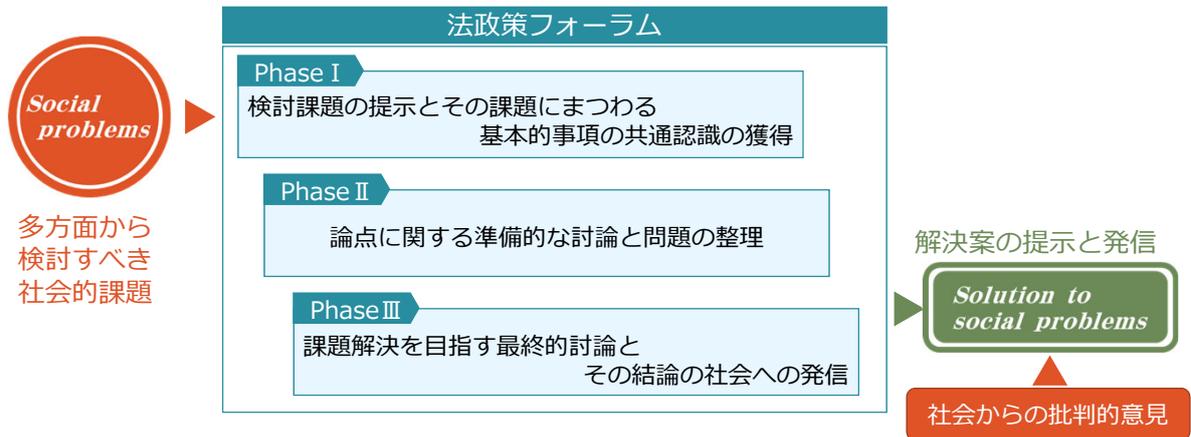
対立する意見 制約条件
▼
トレードオフの感覚
▼
最適解の発見

法政策フォーラム型授業モデル
論理から合理へ、
知識習得から創造的思考力の獲得へ

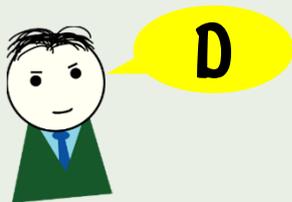
6

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 授業モデル



7



[実行] 授業の実施

8

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 具体的な授業運営について

スケジュール

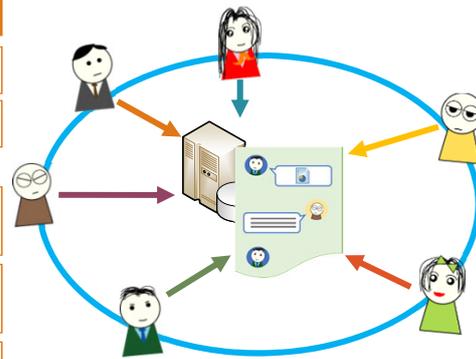
大学ごとの授業回数と開始週のばらつき

初回は「ガイダンス」、最終回は「振り返りと評価」

各フェイズに数週を充て、
一つの課題の検討に3～5週を要すると想定

半期に3～4テーマを取り扱う。
複数テーマの並行進行や議論の分岐も可能とする。

すべての週をフォーラム型授業に充ててもよいし、
部分参加でもよい。



9

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 神奈川大学における実施の様子：教室内での作業

教員が示した要調査項目について
全員で協同して情報を検索する。

求める能力
調査力
情報リテラシ



収集された検索結果・文献資料を
全員で評価・検討する。

求める能力
読解力
分析力



ネット上の議論をふまえて
最終案を作成する。

求める能力
表現力



最終案のプレゼンテーションを
全員で評価する。

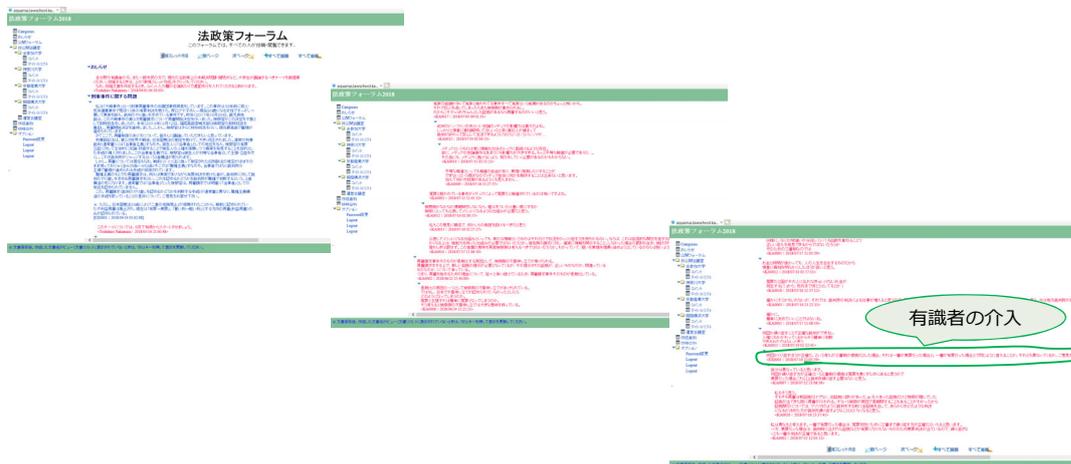
求める能力
表現力



10

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

■ 神奈川大学における実施の様子：ネット上でのディスカッション



11



なかなか思ったようにはいきませんね。

[評価] 実施の結果

12

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

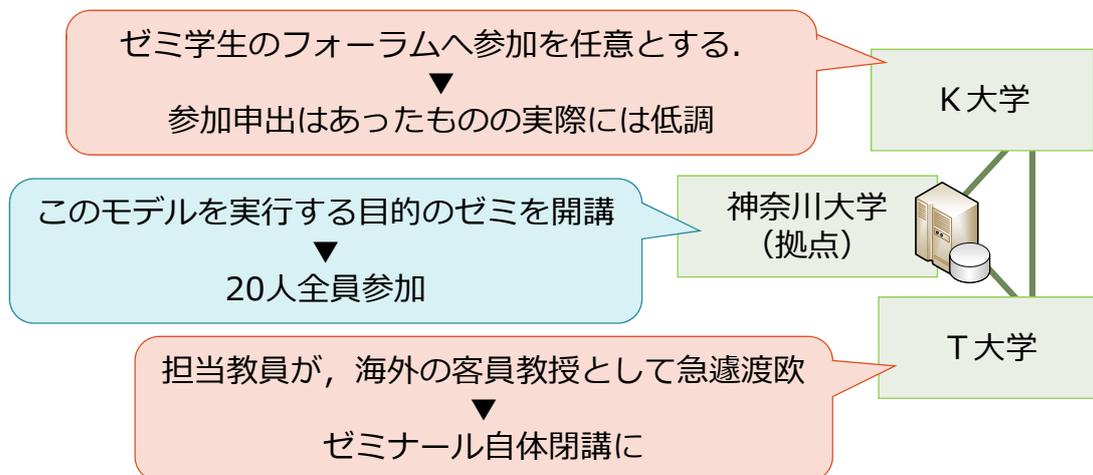
■ トラブル発生（その1）：予定通りにすすまない



13

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

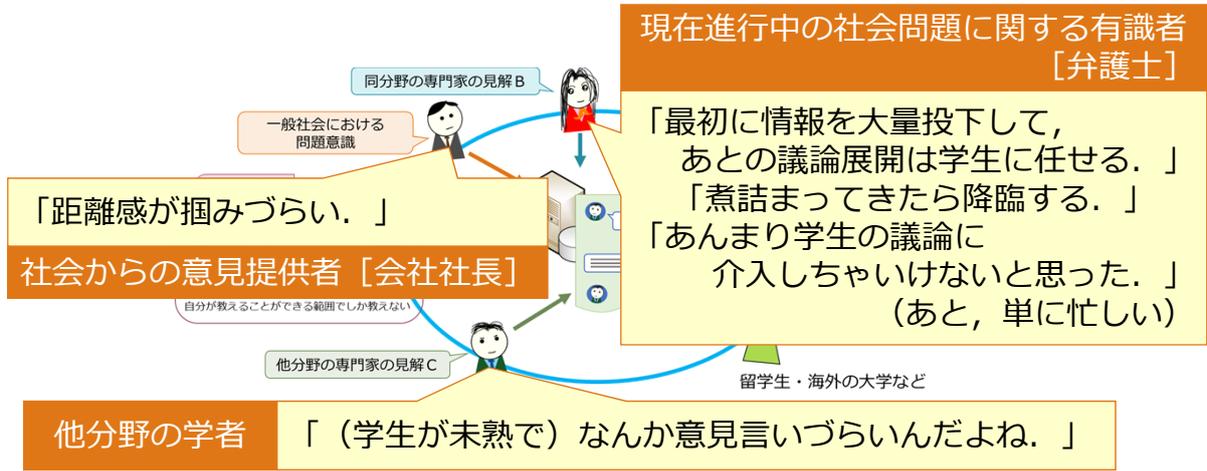
■ トラブル発生（その2）：大学間連携が困難な事態に



14

[法学系分野：法政策フォーラム型授業モデル]

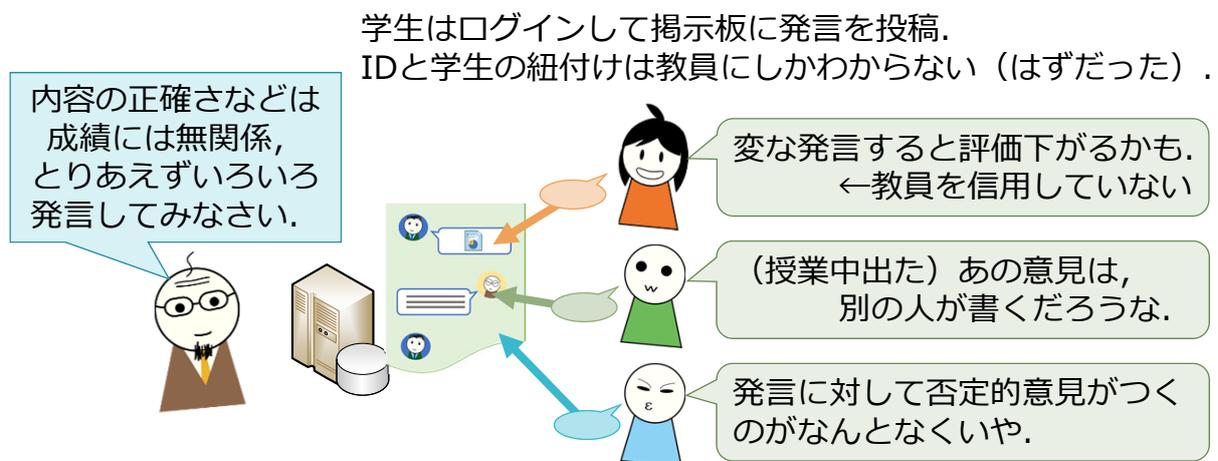
■ トラブル発生（その3）：市民・外部有識者と意識が乖離



15

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

■ トラブル発生（その4）：学生が発言を抑制する



16



[改善] 次年度へむけて

17

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

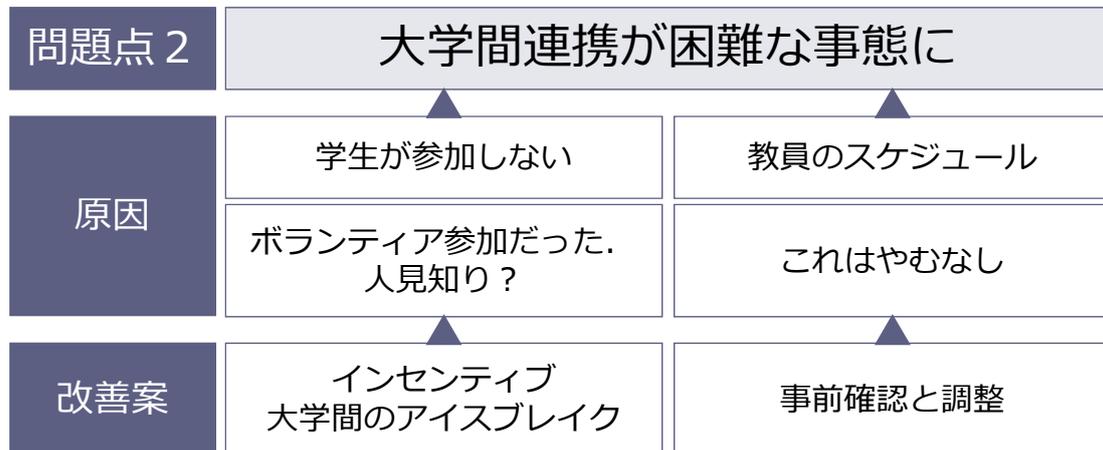
■ 次年度への改善計画

問題点 1	予定通りにすすまない	
原因	慣熟期間が足りない	機器トラブル
	ICT機器やネット掲示板の利用方法の慣熟に、2コマ程度必要だった。	情報教室管理部門を信用しすぎた。
改善案	テーマは2つに絞る	事前確認と調整

18

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

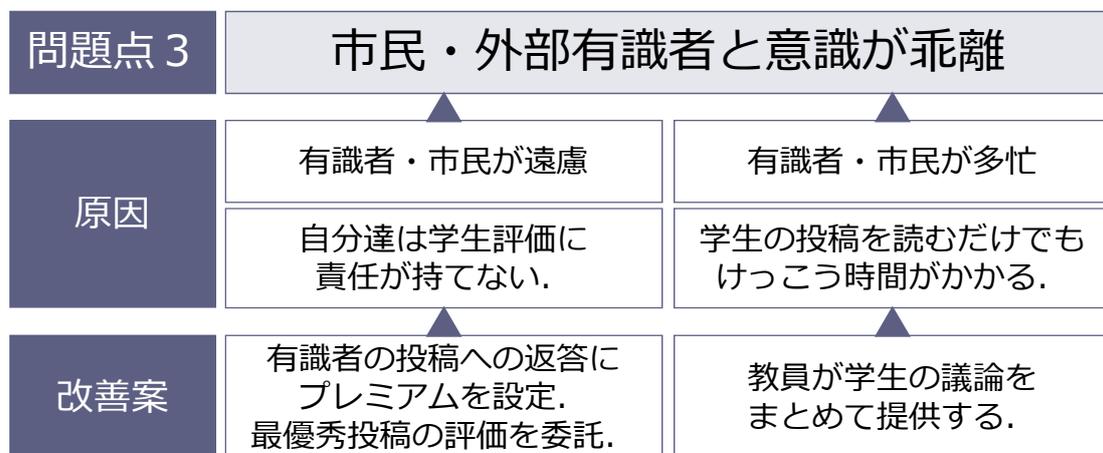
■ 次年度への改善計画



19

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

■ 次年度への改善計画



20

■ 次年度への改善計画

問題点 4	学生が発言を抑制する	
原因	成績評価への影響を懸念	消極性
	教員の言葉は「タテマエ」で、なにがどう評価されるのか不安になる。	少なくとも教員には学生が特定されているので、奔放な発言ができない。
改善案	発言に随時ポイントを与え、評価を「可視化」する。	復元（連結）可能匿名化と教員以外の評価人の設定。

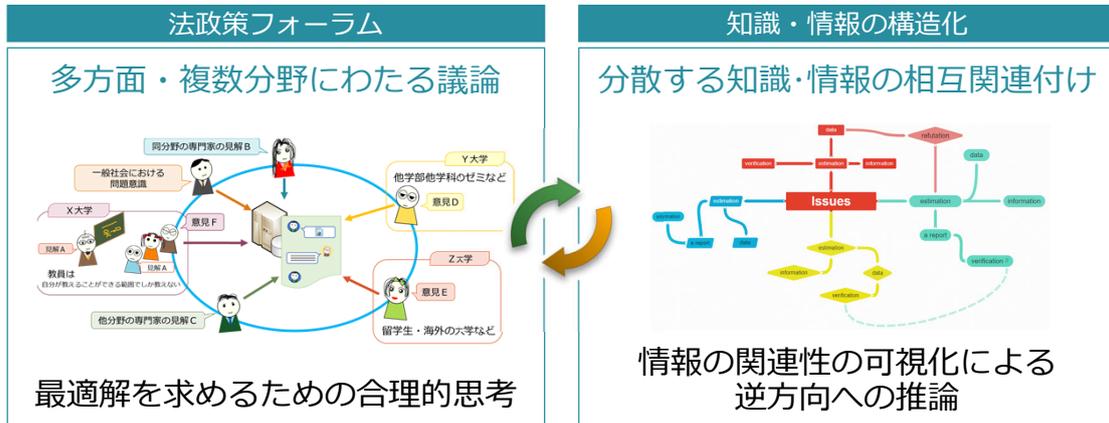


2019

[発展] 2019年度の計画

[法学系分野：法政策フォーラム型授業の運用]

■ 2019年度計画 「フォーラム型授業」 + 「知識・情報の構造化」



23



24